

以下、本文-----

大量出血を伴う婦人科緊急症例における術中回収式自己血輸血を併用した臍部単孔式腹腔鏡下手術の有用性に関する後方視的検討に関する研究

1. 研究の対象

- ①2003年から2018年3月までに、婦人科の急性腹症症例で600mLを超える腹腔内出血量を併発した症例。
- ②多孔式あるいは単孔式腹腔鏡下手術を行う際に術中回収式自己血輸血を行った症例。
- ③治療に対する患者の同意が得られたもの。

2. 研究目的・方法

大量出血(600mL以上)を伴う婦人科緊急症例に対しては、開腹手術を行うとともに、同種血が行われることが多い。しかしながら、その様な症例に対しても、低侵襲性手術である腹腔鏡下手術を行い、更に、同種血輸血を回避するために術中回収式自己血輸血を併用することは、患者へのメリットの多い治療となるが、その様な症例を検討した報告は少ない。今回、従来行ってきた多孔式腹腔鏡下手術による治療成績に加え、臍部単孔式腹腔鏡下手術の成績を、後方視的に、症例を解析し、更に、多孔式腹腔鏡下手術の治療成績と比較することにより、その有用性につき検討することを目的とした。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

600mL以上の腹腔内出血を伴う婦人科救急疾患に対して、術中回収式自己血輸血を併用した吊り上げ法による多孔式あるいは臍部単孔式腹腔鏡下手術により治療を行った際の患者の臨床的背景や手術成績等の後方視的観察研究を行い、多孔式と単孔式の2つのグループの成績を比較する。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

研究責任者: 岐阜県立多治見病院産婦人科 竹田明宏

-----以上